

特集 平成18年度 市の仕事

歩み続けるまち



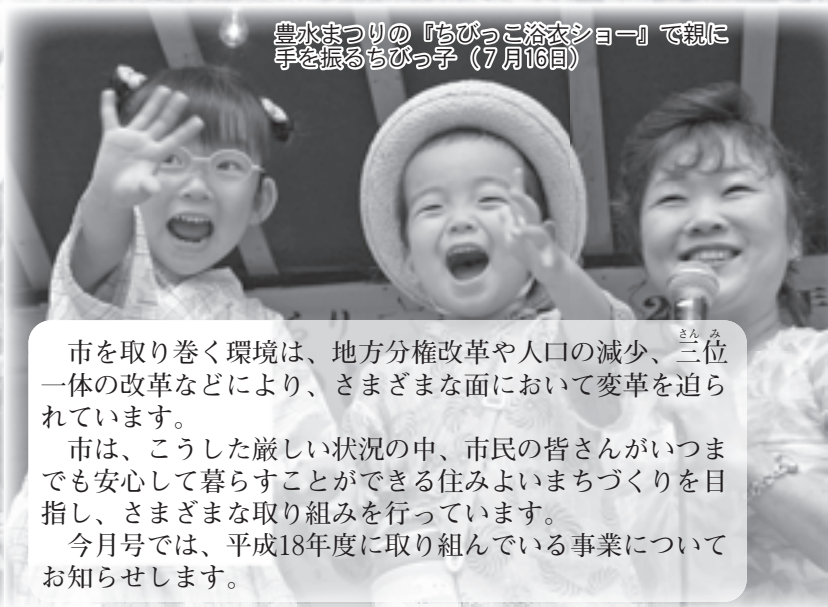
登別まちづくり促進期成会主催の登別駅前『光のしずくキラキラ マチに』の点灯式 (12月3日)



NPO法人モモンガくらぶ主催の『清流じゃぶじゃぶ』に参加し三段の滝 (鉱山町) で記念撮影する参加者 (7月16日)



カルルス温泉冬まつりの『雪中もちまき』 (3月5日)



豊水まつりの『ちびっこ浴衣ショー』で親に手を振るちびっ子 (7月16日)

市を取り巻く環境は、地方分権改革や人口の減少、三位一体の改革などにより、さまざまな面において変革を迫られています。

市は、こうした厳しい状況の中、市民の皆さんがいつまでも安心して暮らすことができる住みよいまちづくりを目指し、さまざまな取り組みを行っています。

今月号では、平成18年度に取り組んでいる事業についてお知らせします。

登別市市民自治推進委員会が設立

市民と行政との協働のまちづくりの根幹となる『登別市まちづくり基本条例』にうたわれた『登別市市民自治推進委員会』が、70人の公募のもと10月12日に設立しました。委員会では、広範な市民参加により、まちづくりにかかわる重要な事項の協議を市民主導で行い、市に提言を行うことにしています。



▲協働のまちづくりを目指す市民自治推進委員会

第4次総合計画第2期基本計画がスタート

平成8年度に、50年後のあるべきまちの姿や人々の生活を思い描いた『基本構想』を策定し、この構想の実現のため、平成18年度からの10年間に取り組む主要施策について、市民検討委員会からの提言を踏まえて『第2期基本計画』を策定しました。第2期基本計画の特色として、行政評価との連動を図るため、可能な限り施策目標数値を設定し、まちづ



そのための、これまでのように各市町が個々に対応するよりは、西胆振地域で連携して、共同の機器やシステムを使うことにより、課題解決を図ることが必要との判断から、昨年11月に登別市も新たに『西いぶり広域連合』に加入し、共同電算処理に向けた取り組みを進めることにしました。

西いぶり広域連合への加入

厳しい財政状況の中、今後想定される税や健康保険などの大幅な制度改革に対応していくには、電算システムの修正や新規システムの導入が必要であり、西胆振地域の市町においても経費の増大や専門職員の確保が課題となっています。



▲第4次総合計画と第2期基本計画

くりに取り組むことにしました。